

総説

日本初公費負担学校看護婦〈廣瀬ます〉に関する研究 —現地調査と文献検討を中心に—

石川 フカエ*1,2

要 約

この研究は、1909（明治42）年、岐阜市高等小学校（現在では岐阜小学校）に市費による専任学校看護婦として（岐阜県立病院からの派遣看護婦という身分から岐阜市の嘱託で学校看護婦となった）採用された〈廣瀬ます〉に関する文献史料の検証を目的とするものである。文献は〈廣瀬ます〉に繋がる方々への直接面接で入手できたものと、史実及び史料からの文献8項目を対象とした。

以下検証史料①～⑧について述べていく。

検証史料 ①杉浦守邦は廣瀬ますを日本最初の学校看護婦と述べている。

検証史料 ②今までの文献すべてに記載されている〈廣瀬ます〉は1883（明治16）年1月1日に廣瀬徳蔵の三女として誕生したが名前は〈ますの〉であった。

検証史料 ③10歳の頃天然痘に罹患した。

検証史料 ④廣瀬ますは明治33年から岐阜県立病院内で始まった看護婦養成に明治38年4月に入学した。

検証史料 ⑤廣瀬ますは岐阜市立京町小学校に28年間勤務した。

検証史料 ⑥廣瀬ますは52歳の現役で死去したがその死因はボランティア先での腸チフス感染によるものである。

検証史料 ⑦廣瀬ますの追悼の碑は、果たして墓石の傍に建てられているのか

検証史料 ⑧廣瀬ますは、「まず健康」の概念を自らの養護活動を通して京町小学校に残した。その概念は長きに渡って受け継がれ今も生きている。

廣瀬ますの没後すでに77年が経過しており、廣瀬自身の書簡は皆無に等しく資料は少ないが、廣瀬が足跡として残してくれたケアマインドは岐阜小学校の中でSpiritual的に受け継がれており、養護教諭の源流として今後にも繋いでいきたいと考えている。

1. はじめに

この研究は、1909（明治42）年、岐阜市高等小学校（現：岐阜小学校）に市費による専任学校看護婦として（県立病院からの派遣職員という身分から学校職員になった）採用された〈廣瀬ます〉に関する調査研究である。

なお、筆者は、本稿と同様の手法を用いた研究報告をすでに「福岡県立大学看護研究紀要」において行っているが、その時点の研究は、廣瀬が学校教育にどのような影響を与えたのかについて述べたもの

である¹⁾。

学校看護婦は養護教諭のルーツ（roots）であると言っても過言ではない。近藤は²⁾、「戦後、学校教育法（1947年）によって養護教諭と改称されるまでの足跡を法規の上からみると、国民学校令（1941年）による養護訓導の職制化、さらには、1929（昭和4）年の文部省訓令「学校看護婦ニ関スル件」にまでさかのぼることができる。だが実際には、この訓令よりもはるか以前に、すでに学校看護婦の歴史は始まっている。学校看護婦は法規の有無にかかわ

*1 川崎医療福祉大学 *2 大分県教育庁

（連絡先）石川フカエ 〒874-0012 別府市スパランド豊海 I 組4
E-Mail : sakura1214@ctb.ne.jp

りなく、日本の子どもの健康の守り手として、長く学校教育現場に根づいてきたのである」と述べている。また、杉浦は³⁾、「日本の養護教諭は、その前身である学校看護婦が欧米のスクールナースとほとんど同じ時期に誕生しながら、異なった発展を遂げてきた。すなわちその名が示すように教員列に加わる職種となったところに特徴がある」とも述べている。

そこで養護教諭の源である日本最初の学校看護婦と言われたく廣瀬ますに焦点を当て、文献上ではすでに史実として社会化されている最大公約数的な8項目の文献史料を検証したのでここに報告する。

2. 養護教諭という概念

養護教諭は学校教育法にて「児童生徒の養護をつかさどる」と規定されており⁴⁾、一方教諭は「児童生徒の教育をつかさどる」と謳われている。また平成17年度から導入された栄養教諭については「食に関する指導と学校給食の管理」とされている。

では、「養護」とは何を意味するかについてはこれまで多くの議論がなされてきたが、ここでは藤田の「学校において健康への配慮や世話（ヘルスケア）をしつつ、それを通して子どもの発達を促し、援助していく営みを養護と規定する」を引用し位置付ける。藤田の定義から「子どもへの健康支援とヘルスケア」を現状の子ども達に当てはめると多種多様な課題が観えてくる⁵⁾。その課題は身体から心身へと広範囲なもので、I型糖尿病、心臓疾患、腎臓疾患等の慢性疾患・心身症、薬物乱用・性の逸脱行為・不登校・特別支援適応児（生徒）・感染症など、大人健康課題の縮図とも言え、社会現象と同じく健康課題においても、大人と子ども間の線引きし難いボーダレス現象と言える。

このような時代の要請に応じ養護教諭の職務内容の変化が見られたのが1998（平成10）年教育職員免許法の一部改正で養護教諭が保健の授業を担当することができるとなった兼職発令である。さらに2008（平成20）年、法制定以来50年ぶりに全面改正された教育基本法の第一条（教育の目的）に謳われている「心身共に健康な国民の育成」を期しての教育にも、大きく養護教諭は関与していく立場である。また、同年に一部改正された学校保健安全法の解釈を杉浦は「今まで学校医を主役として展開してきた日本の学校衛生が、養護教諭を中心とする学校保健に一大転換したことを示すものである。-中略-学校保健事業の中心は定期的健康診断で学校保健の主役は学校医という概念が全く覆って、学校保健事業の中心は保健指導で学校保健の主役は養護教諭という

新しいルールが敷かれたのである」と養護教諭主役時代の到来を説いている⁶⁾。

3. 検証した8項目の文献史料

<廣瀬ます>自身の書簡や記録、学校日誌等の諸記録は1945（昭和20）年に岐阜市を襲った大空襲で消失していることは事前調査で判明していた。また、直接面談者をした廣瀬寿佳（廣瀬ますの兄、助蔵の三男太郎の子息（昭和27年生まれ）自身も「ますさんがこんなに偉大な人だったとは最近知った」と語るほどですに繋がる資料や書簡は残されていない。そこで他の文献を基盤に当時の時代背景や社会現象と照らし合わせ、検証文献史料①～⑧とした。

検証史料 ①杉浦は2005（平成17）年の第52回日本学校保健学会教育講演において、「明治41年（1908）岐阜市京町小学校に採用され昭和10年（1935）まで勤務した日本最初の学校看護婦と言われた廣瀬ます-略」と述べているが、果たして廣瀬ますが日本最初の学校看護婦と言えるのであろうか。

検証史料 ②今までの文献全てに記載されている<廣瀬ます>は、1884（明治16）年1月1日に廣瀬徳蔵の三女として<ます>として生まれたのか。

検証史料 ③岐阜市教育委員会発行の道徳副読本1958（昭和33）年によると⁷⁾「廣瀬ますは9人兄弟の3番目だったが、姉2人は幼い時に病死のため7人兄弟の一番姉として幼少期よりよく働いた。小学校へ通い始めた10歳のころ、当時大流行していた天然痘に罹った。」

検証史料 ④1990（明治33）年岐阜県立病院内に看護婦養成所は設立され、1905（明治38）年4月看護婦養成所へ入学した⁷⁾。当時のますは「これこそ自分に与えられた仕事」と飛びつく思いで、母の反対を押しきって養成所に入所「一生を看護婦となって気の毒な人にために尽くしたい」。

検証史料 ⑤1908（明治41）年9月に岐阜県立病院から岐阜市立京町小学校にトラホーム治療のため派遣され翌年1909（明治42）年11月から岐阜市の嘱託の身分となり、京町小学校の専任学校看護婦として給与も市から支給されるようになった。以来昭和10年まで実に28年の長きにわたって勤務した。（1985年、東山書房、養護教員の歴史）

検証史料 ⑥廣瀬ますは1935（昭和10）年3月当時ボランティアで助産活動していた患者の家で腸チフスに感染し翌月の4月2日午前10時40分、岐阜市立病院にて現職のまま52歳の生涯を閉じた。

検証史料 ⑦京町小学校父兄会一同は⁸⁾、先生

の偉大なる業績を偲び、敬愛の念を表して、同年7月、市内二軒屋の共同墓地にある先生の墓石の傍らに、追悼の碑を建てた。

検証史料 ⑧「まず健康」の概念を京町小学校に残した⁹⁾。

4. 研究方法

4.1 用語の定義

①此処でいう「ケアマインド」は、ケア (care) を藤田 (2002, 一橋大学) の「学校において健康への配慮や世話 (ヘルスケア) から、学校における子どもの健康に関する配慮と世話とし、マインド (mind) はケアと考える、ケアを意図すると捉えたところから「子どもたちの健康を支援したい意思」と位置づけた。

②〈廣瀬ます〉との表現は文献中のますではなく、筆者がますのと向きあう時の表現である。

③文中「まづ健康」と「先ず健康」や旧読みなどの表現があるが、引用文献は原文のまま載せている。

④引用している岐阜県岐阜統計は出生及死亡の欄では出生を生産と死産に分類されていた。ジフテリア等の感染症も實扶的里亜と記載されているがそのまま載せている。

⑤文中の年号記載は主に西暦 (和暦) の表現をおこなっているが、本研究の特質上必要な個所においては和暦とし、引用文献はそのままの形式で記載している。

4.2 研究対象者

直接面談者

①廣瀬寿佳 (廣瀬ますの弟、助蔵の三男太郎の子息で昭和27年生れ)

②大西昌子 (廣瀬ますの助手をしていた廣瀬きみから産後の世話をしてもらった人)

③河村孝子 (廣瀬ますの自宅前に住居していた方で廣瀬寿佳さんと幼いころ遊んだと述べられ、岐阜放送局アナウンサーを60歳までしていた)

電話での聞き取り者

①廣瀬寿男〈廣瀬ますの弟、助蔵の長男寿徳の長男〉

②廣瀬ゆみ子〈廣瀬ますの弟助蔵の三男太郎の妻で1928 (昭和3) 年生まれ、直接面談者廣瀬寿佳の母〉

③廣瀬文子〈廣瀬寿男の妻で廣瀬ますの助手と文献に表記されている廣瀬きみと1987 (昭和62) 年から同居している。廣瀬きみは1912 (明治45) 年1月24日生れ。2012年現在で100歳となり岐阜時代の記憶は消失していると廣瀬文子は語る〉

④河邊ひさ子〈廣瀬ますの助手と文献に表記の廣瀬

きみの三女で滋賀県在住〉

⑤Aさん (岐阜看護大学の卒業論文の一部に廣瀬ますの一部を記述している)

4.3 研究材料の収集

〈廣瀬ます〉自身の書簡や記録、学校日誌等の諸記録は1945 (昭和20) 年に岐阜市を襲った大空襲で消失していることは事前調査で判明していた。しかし、廣瀬ますが1908 (明治41) 年12月~1935 (昭和10) 年4月まで勤務していた岐阜市京町小学校 (昨年金華小学校との合併で岐阜小学校と2008年に改名) へ調査に行った。他に廣瀬ますの養護活動の根拠などすべき客観的資料を探すために下記の施設・機関にて調査 (面接調査を含む) を行った。

調査施設・機関

①朝日新聞岐阜支社：1988 (昭和63) 年5月13日 (金) の夕刊。科学技術史散歩『学校看護婦の草分け一保健・養護に献身した廣瀬ます一』原文なし

②岐阜市役所：廣瀬ますの戸籍閲覧

③岐阜新聞社：1945 (昭和20) 年の岐阜大空襲にて昭和10年代以前のデータは焼失したとの回答あり

④岐阜市立図書館：京町小学校閉校記念式典2008 (平成20) 年3月における吉田岐阜市長の挨拶文が収集できた。その挨拶文に廣瀬ますを讃えている。

⑤岐阜市歴史資料館：『京町小百年』の収集

⑥岐阜県立図書館資料：1988 (昭和63) 年5月13日 (金) の夕刊。科学技術史散歩『学校看護婦の草分け一保健・養護に献身した廣瀬ます一』の記事をコピーできた。

⑦岐阜県立歴史資料館：1900 (明治33) 年『学校例規』羽島郡役所の閲覧とデジタルカメラでの撮影許可を受諾され、〈廣瀬ますの〉生きた時代背景の理解に役立った。

⑧岐阜市保健センター (地域保健課)：廣瀬ますの看護婦・助産婦免許について。

⑨岐阜県庁医療整備課：〈廣瀬ます〉の看護婦・助産婦免許習得の時期の確認のため訪ねたが、親族者以外は回答してもらえず、廣瀬寿佳氏に依頼した。

⑩岐阜市教育委員会：1958 (昭和33) 年岐阜教育委員会発行の道徳副読本『ぎふにすだつ心』に関する聞き取り調査

⑪岐阜共同墓地：〈廣瀬ますの〉が永眠する墓と墓の傍に立つ廣瀬ます女史碑

⑫岐阜県立看護大学：先行研究「養護教諭の専門性の確立に向けて」

4.4 倫理的配慮

倫理的配慮に関して：研究の目的や意義を廣瀬ますの業績やこの研究に大きな示唆を与えるべき方々、例えば廣瀬ますの直系のご子孫については、まず電話にてアポイントを取り、了解を得て直接説明を行った結果、快く「実名を記載ください」との承諾が得られた。

5. 結果

5.1 検証史料①廣瀬ますのが日本最初の学校看護婦と言えるのであろうか。

澤山信一¹⁰⁾、「わが国最初の学校看護婦は新潟県南蒲原郡組合立三条高等小学校に学校医の助手として明治32年9月より看護婦を置き医師の指揮により児童の学校に出席する日（大概一週三回）隔日に授業時間中一学級づつ治療をなさせり。」とトラホームの治療にあたらせていたと述べているように、ただ看護婦をトラホーム治療者として学校に配置した例は他にも見られる。明治38（1905）年には岐阜県竹ヶ鼻小学校及び笠松小学校にもトラホーム治療のために学校看護婦を置いている。ただ、いずれも短期期間の雇用でその費用も校費と保護者負担であった。近藤真庸は養護教諭成立史に中で次ぎのように述べている¹¹⁾。『岐阜市高等小学校においては一略治療実費として父兄の相談を経て貧窮者を除外し患児童より月十五銭を徴収せり』。

そこで、杉浦が廣瀬をなぜ「日本最初の学校看護婦」と捉えたのかを考察してみる。廣瀬は明治1908（明治41）年9月に前任新垣敏子の後継者として岐阜県立病院から派遣されるが、明治1909（明治42）年11月から専任学校看護婦として市負担の学校職員として採用された事を指していると言える。

では、なぜこの機に「廣瀬ます」が公費負担となったかについての理由を杉浦は次の③点を挙げている¹²⁾。『①この小学校が当時では岐阜市内ただ1つの高等小学校であったこと②高等小学校卒業後、間もなく徴兵検査を受ける制度であった事から、そこでトラホームなどが多ければ学校及び岐阜市の恥辱となる。そのために市の政策として罹患率を下げる必要があった。③これまでは保護者から治療費を徴収しており、いわばPTA主催の随意事業であったが、之では治療が徹底しない。公費負担で罹患生徒全員治療となれば、従事する学校看護婦も当然公費負担にしなければならなくなった』そこで京町小学校の沿革を調べてみると明治6年名古屋藩旧役所を校舎にあて大観舎と称し、明治7年に女子を収容して伊奈波学校、男子校舎を金華小学校と称した。明治27年に岐阜市高等小学校と改称している。市内唯

一の単独高等小学校として存在しており、大正14年岐阜市京町尋常高等小学校と改名されている。更に、廣瀬のことを杉浦は1971（昭和46）年、養護訓導の歴史の中で、「開拓者の前途は常に茨の道である。これにくじけず、ひるまず貫き通す人こそ、真に非凡の人といえる。開かれた大道を、後に歩むものは先人の苦勞を深く多としなければならぬ」と述べている。続けて「廣瀬ますがもっとも学校で心を尽したのは、児童に保健意識を育てることだった。学校診察の効果などは知れたものである。学童期にうつけられた保健的な知識、態度こそ、その人の一生の健康を築くものである」と述べているように、ただ単に廣瀬が継時的な存在でなかったことをもって「日本最初の学校看護婦」と言わせた所以であらう。

5.2 検証史料②「廣瀬ます」は、1884（明治16）年1月1日に廣瀬徳蔵三女として生まれ、昭和10年4月2日午前10時40分に死去している。戸籍上は「廣瀬ますの」であった。助産婦の免許状番号は1310で、記載されている氏名は「廣瀬ます」であった。明治44年3月23日に修得、免許証消失日が昭和10年5月2日となっていた。また、帝國学校衛生会発行『養護』5巻5号（昭和7年5月）に「第4回全国学校看護婦大会に参加して」のタイトルで廣瀬ますが自らの記事を掲載している。さらに1973（昭和48）年『京町小百年』の記念誌において旧職員の名簿欄に「廣瀬ます」就任年月日：明治41年12月23日、退任年月日：昭和10年4月2日と記載されている。つまり死去した日にちである¹³⁾。戦後初めての学習指導要領の改訂に伴い復活した道徳の時間のため、岐阜市教育委員会が作成した道徳の副読本「ぎふにすだつこころ」目次十三に『愛のあしあと』学校看護婦廣瀬ますと記載されている。この副読本の発行は廣瀬の没後23年を経ており、記事を書いたのは桑原こうで、京町小学校にて昭和6年から廣瀬が死去する昭和10年4月までの約3年間一緒に勤務した者である。

以上のことから戸籍上は「廣瀬ますの」であっても本人も「廣瀬ます」と望んで名乗っていたと考えられる。

5.3 検証史料③「廣瀬ます」は10歳のころ、当時大流行していた天然痘に罹った。

岐阜県岐阜統計から観てみる¹⁴⁾。「明治16年の統計第149伝染病及び地方ノ病死者の欄に天然痘293人、明治19年には326人」と載っており、虎列刺、腸窒扶私、発疹扶私、赤痢、實扶の里亜、脚気などは比較できない多数の死亡であった。

明治36年の出生及び死亡欄をみると生産34,169に

対して死産4,362で実に12.8%の死産率である。このような衛生状況からも〈廣瀬ます〉が天然痘に罹患したことは十分にうなずけると言える。

5.4 検証史料④明治33年岐阜県立病院内に看護婦養成所は設立され、明治38年4月看護婦養成所へ入学した。

明治33年岐阜県立病院内に看護婦養成所は設立されたとあるが、岐阜県統計上からは看護婦養成に関わる経費は空欄である。しかし、ウィキペディア検索では1900（明治33）年に病院内において「産婆看護婦養成所を設置」とあるが、1904（明治37）年一時中止されていることから明治38年4月入学はあり得ない。養成の再開は明治40（1907）年である。県衛生及病院費の決算報告に産婆費看護婦養成費の枠組みは経常費の中に組み込まれているが、明治38年、39年、40年、41年は空欄で明治42年に初めて359円の産婆費看護婦養成費加えて、敷地費4,775円と雑費35円が同年のみ計上記載されている所から、岐阜県費による養成は明治41年から始まったと考えるのが妥当であろう。〈廣瀬ます〉の助産婦免許状の発行年が明治44年3月であったこともそれらの裏づけとなろう。廣瀬ますの看護婦免許状の登録なかったが、明治44年12月末日現在の統計に興味深い発見があった。岐阜市において産婆の試験合格者26名で、従来の開業産婆12名、合計38人と記録されている。この年の産婆試験の合格者26名の内一名が〈廣瀬ます〉である。一方看護婦試験等はないが、看護婦に従事している数が21名であった。

産婆規則が明治32年に制定され助産師・保健師・看護師の中では一番早く規則が制定され産婆養成も資格試験も規則に則り進んでいった様子がこの岐阜統計からも読み取れる。看護婦規則が制定されるのは大正4年と少し遅れを取っている。従ってそれ以前は医療機関で働きながら或いは医師のお手伝いの教育を受けていたと考えられることから、廣瀬は明治38年に県立病院へ見習い看護婦として就職したことは考えられる。看護婦の掲上はないが看病人として女19名と記載されている。産婆の免許状をとる以前に看護婦の見習いとして県立病院に就職し看護婦の業務を修得した上で産婆の免許を取ったと考えられる。そこで明治41年院長鈴木豊治の推薦で京町小学校の学校看護婦として派遣されたのである。

当時の社会状況を見ると、明治24（1891）年に濃尾大地震（死者7,000余人、負傷者17,000余人）が起こり、東京の大学、日本赤十字社から医師、看護婦らの救援活動に触発されたこと¹⁵⁾、また明治26年～30年にかけて、全国的に赤痢とコレラの大流行がおこり県単位もしくは群単位の看護婦養成が急務の

課題で在ったことは否めない。その少し前の明治16年には岐阜県において岐阜県私立衛生會が創立され医事の研鑽と同業者の親睦を旨とした組織があった¹⁶⁾。

5.5 検証史料⑤1908（明治41）年9月に岐阜県立病院から岐阜市立京町小学校にトラホーム治療のため派遣され以来昭和10年まで実に28年の長きにわたって勤務した。

28年間における子どもへの養護活動を著明に表した文献を引用する。これは昭和3年に廣瀬が岐阜県知事表彰を受けたことを小幡治子が『故廣瀬ます先生追悼の記』としてしるしている。なお小幡治子は大正7年～昭和15年3月31日まで京町小学校に在職しており廣瀬と16年間同じ学校の同僚であった¹⁷⁾。

『学校衛生に盡瘁せられた功績－廣瀬先生が学校へご勤務になった頃の治療室には、トラホーム洗眼用の器具が二～三個あるだけで救急箱はあっても必要な薬品や材料がほんの僅かで、石鹸、タオル、洗面器を初め包帯材料などもご自分が僅かな手当を割いてお求めになってお居られました。併し、先生は、お母様から受けられた固い信仰に生きて居られましたから、之を少しも不幸とせず唯々児童のために寝食を忘れてお盡しくございました。校長先生も学校の自慢の一つとして参観者があれば必ず治療室にご案内になる程でした。大阪市に博覧會がありました時にも、その他の共進會・博覧會等にその實況の写真を出品せられて褒賞賞状を受けられたこともありました。とはいえ、教室が足りなくなると邪魔扱にされます。或時は廊下の隅、或時には階段の下とゆうような有様だったそうです。一中略一しかし、廣瀬先生の温厚な人格と燃ゆるが如き児童愛の前には何の障害も起こりませんでした。』

5.6 検証史料⑥廣瀬ますは1935（昭和10）年3月産婆活動していた患者の家で腸チフスに感染し翌月の4月2日午前10時40分、岐阜市立病院にて現職のまま52歳の生涯を閉じた。

元岐阜県養護教諭会会長であった長谷部鷹子は『養護訓導職制制定以前一初代学校看護婦廣瀬ます女史を偲ぶ』の中で廣瀬きみさんとの談話として次のように載せている。『先生は産婦が腸チフスであることを隠していた為に感染され高熱が続いてなくなれととても残念でした……。』廣瀬きみとは廣瀬の産婆活動の助手であり、また甥の嫁でもあった。廣瀬は助産院を開業しておらず、また生涯を弟助蔵と一緒に家で過ごしていた。廣瀬ますの喪主は廣瀬助蔵が務めた。

甥の嫁で廣瀬の産婆活動の助手的存在で在り、廣瀬没後も産婆活動を継続した廣瀬きみは、1912（明治45）年1月24日生まれの2012（平成24）年1月24日で百歳を迎え存命である。1987（昭和62）年から岐阜市を離れて長野へ転居していることから、この対談はそれ以前のことである。

岐阜県岐阜統計による昭和10年の概要から確かに伝染病による死亡の項に脳脊髄膜炎67人、赤痢60人、ジフテリア26人、腸チフス20人、パラチフス12人、痘瘡11人、猩紅熱9人とある。この腸チフス20人の一人が＜廣瀬ます＞であった。

5.7 検証史料⑦京町小学校父兄会一同は、敬愛の念を表して、同年7月、市内二軒屋の共同墓地にある先生の墓石の傍らに追悼の碑を建てた。

京町小学校は昭和1973（昭和48）年に開校100周年記念式典を開催した。その記念誌『京町小百年』のp34で次のように述べられている¹⁷⁾。『先生は、－略－本校児童のために心血をそそいでこられました。－略－児童ひとりひとりの健康状態を細かく調べ、常に温かい愛情をもって看護の任をまっとうせられました。先生にお世話になった数多くの児童は勿論のこと、その親たちからも深い信頼と敬愛の念が寄せられておりました。』図1の追悼の碑が建立され、その碑には下記の文字が刻まれているが、ただこれは墓石ではない、また＜廣瀬ます＞はここには眠っていない。長野県の廣瀬きみさんの住む処に墓は建てられている。

5.8 検証史料⑧「まず健康」の概念を京町小学校

に残した。（図2・図3・図4）

京町小学校が1973（昭和48）年に開校100周年を迎えた。その記念号『京町小百年』には各年度の卒



2010年8月岐阜小学校への調査時に筆者撮影

図2 校舎壁面に掲げられたまず健康



2010年8月岐阜小学校への調査時に筆者撮影

図3 児童玄関掲げられたまず健康



2010年8月筆者撮影、岐阜市上加納の市営共謀墓地の中に建立されている。しかし、廣瀬ますはここには眠っていない。

図1 廣瀬ますの頌徳碑と刻まれた碑文

岐阜市立京町小学校校長 生七位勲六等大野文助撰並書

夫レ人生尊ムヘキハ富力位力将地位力非ス高潔ナル志操ト献身の行為ニ存ス故廣瀬ます女史ハ廣瀬徳三氏第三女トシテ明治一六年一月一日岐阜市柳町ニ生ル資質温厚慈悲ニ富ミ夙ニ産婆看護婦トシテ博愛慈悲ノ行ヲ遂ケントシ終生嫁セス殆ト全生涯ヲ岐阜市京町小学校看護婦トシテカラ児童ノ保健養護ニ論シ頗ル其ノ信愛ヲ受ケ傍依頼ニ應シテ懇切助産ニ従ヒ 尚学校看護婦会ノ為ニ尽スコト歎ラスステ其ノ名声県外ニ及フニ至ル実ニ偉ナリト謂フヘシ惜イ哉本年三月偶病ニ罹リ又立タス四月二日死ス今回京町小学校父兄相議リ頌徳碑ヲ建設セラルニ当リ予請ニ応シ御経歴ノ叙シ碑文トス

昭和十年七月 岐阜市京町小学校父兄会建之



2010年8月岐阜小学校への調査時に筆者撮影

図4 昭和62年度卒業文集の表紙に活かされたまず健康

業生代表1名が各々小学校時代思い出として1ページを割いて記載している。その中で昭和12年度卒業生の山田は「まづ健康」のタイトルでまず健康を合言葉に昼休み、放課後等に全員で運動場を走り心身を鍛えたことを回想し、成人した後も「まづ健康」をモットーに生きてきたことも併せて書いている。更に校舎壁面と校内の目立つ個所に「まず健康」の大スローガンが図5のように掲げられていた。さらに、昭和20年の大空襲で校舎が全焼し「まず健康」の大看板も燃えてしまったことを心底残念に思い、卒業生に資金を募り再建した際にも『後輩にもくまづ健康>を残したい』との強い願いがあったとも記載されていた。その根拠に22代校長杉山拾一も次のように述べている¹⁸⁾。

『略-京町小学校の過去には日本教育の先駆者推

薦者として教育史上に残る幾多の貢献をして参りました。明治41年12月、現在の養護教諭の前身である学校看護婦が配置されたこともそのひとつであります。これは知育万能時代の当時の教育界では考えられないほどの一大飛躍であり、現在の養護教諭の草分けとして、また学校教育に保健衛生・健康面を新しくとり入れこれを重視する風潮を高めたことは非常に意義深く教育史上有名であります』

京町小学校も近年の少子化現象で、2008（平成20）年度に近隣の金華小学校と合併し岐阜小学校と改名された。同年3月の閉校式において岐阜市長が「一京町小学校には、全国に先駆けて養護教諭が配置された学校として、教育史にもその名を残し、初代養護教諭である廣瀬ますの功績は、京町地区の有志により顕彰碑として残されています。またその意思は『まず健康』のスローガンとなり、児童の健康教育やサッカー等のスポーツ活動にも熱心に取り組み続け、輝かしい足跡を残しています」と挨拶の中で述べている¹⁹⁾。また、筆者が調査に入った2009（平成21）年の7月岐阜小学校ではPTA主催の6年生夏季鍛錬キャンプの準備がなされていた。その少し前の同年6月15日発行の6年生保護者宛夏季鍛錬キャンプ実施に伴う案内文を一部抜粋する。

【キャンプの歴史】

『明治41年、全国で最初の保健養護教諭として、廣瀬ます先生が着任される。先生は、およそ26年間にわたり、夏休みには、〈林間学校〉などを開設されるなど、子どもたちの心身の健康に努められた。以来くまづ健康>が旧京町小学校の合言葉となる。昭和10年、現職中に他界されるまで続いた〈林間学校〉の伝統を引き継ぎ、旧京町小学校PTA創立以来、PTAの主催事業として引き継がれ、岐阜小学



京町小学校100周年記念誌『京町小百年』、1973、p13

図5 昭和10年の全校朝会

校となった現在も、PTAの伝統行事の一つとして本年度に至る』と廣瀬が子どもの健康増進の為に始めた6年生夏季鍛錬キャンプは2009（平成21）年の夏にも企画されていた。しかも、2008（平成20）年度からは京町小学校と金華小学校が統合され岐阜小学校として誕生した翌年にも京町小学校時代の廣瀬の意思は引き継がれていたのである。

6. 考察

表題に「日本初公費負担学校看護婦〈廣瀬ます〉の研究」と挙げて公費負担となったことが、どのような影響と結果を与えたかについて考察してみる。廣瀬が公費負担となれば全日勤務となり、洗眼も十分に行え、トラホームの罹患児童も減少してきた。当時は衛生・生活環境も劣悪で凍傷や皮膚病・むし歯の児童が多く児童数も1,000人を超えていた。その為に廣瀬は「昼食も食べている時間がなかった」と懐柔している²⁰⁾。

図6のように手足を温水やクレゾール水に入れ、或いは図7のように、むし歯で痛がる子どもの応急処置をしている。トラホームの洗眼だけであれば医務室（保健室）に移動も簡単であったが、このようにその他の治療が入ってくれば固定した教室が必要になってきた。当時はまた身体検査（身長・体重・聴力など）への協力も加わり器具も整備されてきている。他の業務として校外学習への付き添い、朝会での指導、採光通風状態などが入りトラホームの洗眼から役割が広まり学校保健の基礎的役割が備わってきたといえる。このことは洗眼と言う衛生事業から児童への養護活動への大きな転換期と言えるであろう。加えて学校以外での影響も大きく、県庁所在地の岐阜市において学校看護婦を公費負担としたことを知って、これに見習う所もでてきた。廣瀬の学校における位置も図8で示すように職員写真も先生方として処遇されている。服装は白衣であるが、髪型は女子先生たちと同じ当時のハイカラと称された前を浮かした東ね髪である。図5に示すくまづ健康の朝会を全校挙げて行っているが、この言葉をまず言い出し常に強調していたのが廣瀬だと杉浦は唱えている。さらに、京町小学校が1973（昭和48）年に開校100周年を迎えた。その記念号『京町小百年』には各年度の卒業生代表1名が各々小学校時代思い出として1ページを割いて記載している。その中で昭和12年度卒業生が「まづ健康」のタイトルで記述している。なお、この『京町小百年』には明治40年卒業生～昭和47年卒業生までの78人が思い出を寄稿しており、その内でタイトルに「先づ健康」「まず健康の文字によせて」の2編と文章内に



杉浦守邦著『養護教員の歴史』、初版、1974、東山書房、p22

図6 児童のしもやけ等の手当てをする廣瀬ます



杉浦守邦著『養護教員の歴史』、初版、1974、東山書房、p21

図7 児童の歯痛等の処置をする廣瀬ます



先生方の集合写真に白衣を着て撮影に臨んでいる廣瀬ます。学校看護婦としての誇りが読み取れる。京町小学校100周年記念誌『京町小百年』、岐阜出版、1973、p33

図8 大正13年度岐阜市立京町小学校全教員集合写真
前から三列目の右から二人目、白衣を着ている廣瀬ます

「中舎の東側の壁面に、大きくはっきりと、〈先づ健康〉という文字が掲げてあった」など3編が載っていた。最初の2編は廣瀬が没した昭和10年と2年後の12年であった。「まず健康」の概念を京町小学校に残したといえるのは昭和47年卒業の代表が「京町小のモットーであるくまづ健康」に留意して不屈の精神を持って未知数の未来に向かって生きる事を目標にしたい。」と結んでいたことから言える。

最後に廣瀬のケアマインドに触れておかねばならない。

1947(昭和22)年新たな日本国憲法の基に教育法及び教育に関する法令・施行規則が交付された。学習指導要領も刷新され、教育内容に大きな変化が見られた。中でも道徳教育が外されていたが、昭和33年の学習指導要領の改訂でこの年度から再び道徳教育が学校教育の課程に組み入れられた。岐阜市教育委員会では、新たな道徳教育の副読本を岐阜市で作成した。

『ぎふにすだつ心』図9²¹⁾、の中で愛のあしあと・学校看護婦廣瀬ます。p149桑原こう(長良小)とある。廣瀬ますは昭和10年4月2日に他界している²²⁾。廣瀬の記事を書ってくれた桑原は昭和6年3月31日～昭和36年3月31日の30年間で京町小学校に勤務しており、廣瀬との重なりは昭和6年～10年までであった。その3年間に二人がどのような繋がりを持っていたのかは不明であるが、桑原教師が捉え観た強烈な廣瀬観を桑原が持っていたと言えよう。なぜなら、この副読本は1958(昭和33)年3月に完成しており、取材、編集は前年度の32年に着手したとしても、廣瀬の没後22年が経過していたにも関わらず、桑原が8ページに渡る原稿を書き上げる為に、自分に残る記憶の証明や根拠を調べるエネルギーの膨大さから推察できるからである。



戦後初の学習指導要領改訂において道徳の時間が復活し、岐阜市教育委員会が道徳の副読本として最初に作成した出版物の表紙。この副読本のp149に『愛の足跡』のタイトルで廣瀬ますの子どもへの愛を記載している。

図9 岐阜教育委員会、『ぎふにすだつ心』, 1958(昭和33)年

この『愛のあしあと』の中で、子どもへの養護活動として特記すべき個所は(前述のぎふにすだつ心 p155～156)『最も人々に感銘を与えたものは、愛の救急車を作ったことであった。今のように自動車を呼べば2～3分できてくれる頃ではない。まずは何とかして、けがした子ども・急病人を家へ或いは病院へ、安静に運んでやる工夫はないものかと、常に心をくわいていた。ある日まずはいそいそと学校の小使さんの部屋に、古ぼけた一台の藤車(乳母車)を運んだ。私費を投じて、古道具屋を探し歩いて、買い求めた車なのである。中略一例の藤車は上部のところが三分の一ほど落とされ、ちょっとした台が、前部にとりつけられ腰かけられるようになって、その上に美しいふとんが一枚のせられていた。これはますが小使さんと一緒にこつこつ改造した愛の救急車なのであった。それから折々、この救急車にけがをした子どもを乗せて黙々と送って行く廣瀬の姿があった。』

この粗末な愛の救急車は永く学校に保存されていたが、1945(昭和20)年7月の空襲の折りに惜しくも燃えてしまっていた。

今、養護教諭に向けられている期待や役割・守備範囲は大きく広く、或いは深くなってきている。まさに先人に学び、他の国には見られない養護教諭制度を進化(教員数の改善をも含んで)させると共に、養護教諭の資質の普遍性をも追究していかねばならない。

7. おわりに

廣瀬の没後すでに77年が経過しており、廣瀬自身の書簡や資料は少ないが、廣瀬が足跡として残してくれたケアマインドは学校保健の中でSpiritual的に受け継がれて養護教諭の養成教育における源流として広めていきたいと考えている。

謝 辞

この研究報告の前半をすでに「福岡県立大学看護研究紀要」において発表しており、その後の継続研究であるが、継続する力の微弱な筆者に対して、精神的に大きな力を注いでいただいた津島ひろ江先生に、まずお礼と感謝の気持ちを申し上げます。次は研究の深まりと視座に強く影響を与えていただいた杉浦先生にお礼と感謝を申し上げます。杉浦守邦先生は長年養護教諭に関する書籍を多く出版され学校保健に携わる人にとっては神的存在の先生です。そのような先生が未熟な私に貴重な資料やアドバイスを頂いた事は終生忘れ得ません。ありがとうございました。

文 献

- 1) 石川フカエ：「廣瀬ます」に関する考察－日本初の公費負担による学校看護婦の養護活動を通して－. 福岡県立大学研究紀要, 7(2), 47-55, 2010.
- 2) 近藤真庸：養護教諭成立史の研究. 初版, 大修書店, 東京, 1-2, 2003.
- 3) 杉浦守邦：新学校保健法に期待する. 日本健康相談学会誌, 1(4), 1-5, 2009.
- 4) 解説教育六法編集委員：解説教育六法. 教育基本法第一章, 第一条, 教育の目的, 第1版, 三省堂, 東京, 42, 2008.
- 5) 藤田和也：学校の本来的機能としての養護機能. 一橋大学スポーツ科学研究年鑑, 43-51, 2002.
- 6) 杉浦守邦：第52回日本学校保健学会教育講演資料『日本の養護教諭の歩み』. 日本学校保健学会, 2005.
- 7) 岐阜市教育委員会：ぎふにすだつ心（道徳副読本）. 初版, 平和印刷, 岐阜, 1958.
- 8) 岐阜市京町小学校：京町小百年. 初版, 岐阜出版, 岐阜, 12, 1973.
- 9) 岐阜市京町小学校：京町小百年. 初版, 岐阜出版, 岐阜, 69, 1973.
- 10) 澤山信一：学校保健の近代. 初版, 不二出版, 東京, 37-38, 2004.
- 11) 近藤真庸：養護教諭成立史の研究. 初版, 大修館書店, 東京, 3, 2003.
- 12) 杉浦守邦：養護教員の歴史. 初版, 東山書房, 京都, 18-23, 1974.
- 13) 岐阜市京町小学校：京町小百年. 初版, 岐阜出版, 岐阜, 123, 1973.
- 14) 岐阜県：岐阜県統計書. <http://www.pref.gifu.lg.jp/kensei-unei/tokeijoho/gifuken-tokeisho/mainendeta/>, 2012.
- 15) 高橋裕子：地域の学校衛生史に関する検討（2）. 第68回日本学校保健学会, 2011.
- 16) 日本赤十字社：看護師養成の歴史. <http://www.jrc.or.jp/nurse/history/index.html>, 2012.
- 17) 岐阜市京町小学校：京町小百年. 初版, 岐阜出版, 岐阜, 125, 1973.
- 18) 岐阜市京町小学校：京町小百年. 初版, 岐阜出版, 岐阜, 34, 1973.
- 19) 長細江茂光：岐阜小学校の閉校に寄せ京町小学校の閉校を惜しんで. 初版, 岐阜市広報課, 岐阜, 2007.
- 20) 廣瀬ます：私の学校に於ける凍傷の予防と手当てについて. 養護, 2(12), 10-18, 1929.
- 21) 岐阜市教育委員会：ぎふにすだつ心（道徳副読本）. 初版, 平和印刷, 岐阜, 149-156, 1958.

（平成24年11月30日受理）

A Study of Masu Hirose, the First School Nurse Employed at Public Expense, Based on an Examination of Written Records and Further Data Obtained through Field Work

Fukae ISHIKAWA

(Accepted Nov. 30, 2012)

Key words : Masu Hirose, study of history, school of health

Abstract

This study seeks to examine documents concerning Masu Hirose, who was hired as a full-time school nurse at Gifu Higher Elementary School (currently Gifu Elementary School) in 1909 (Meiji 42). A budget was allocated by the city for the purpose of hiring her. The documents encompass interview data with people related to Masu Hirose and eight documents from historical archives.

The eight documents are as follows: 1) a document composed by Morikuni Sugiura, who mentions Masu Hirose as the first school nurse in Japan; 2) a document recording Masu Hirose's birth on January 1 in Meiji 16 as the third daughter of Tokuzoh Hirose; 3) a document recording her contracting smallpox at the age of 10; 4) a document recording her enrollment in a nursing program in April, Meiji 38. This nursing program had been established on the premises of Gifu Prefectural Hospital in Meiji 33; 5) a document confirming that Masu Hirose worked at Gifu Municipal Kyohmachi Elementary School; 6) a document confirming Masu Hirose's death at the age of 52. That she was still working full-time at the time of her death has led to speculation that she may have died as a result of contracting typhoid while doing volunteer work elsewhere; 7) a document on the question as to whether a monument should be erected on the site of Masu Hirose's grave; and 8) a document posing the question as to whether Masu Hirose's philosophy of school nursing is still relevant 77 years after her death.

It has been 77 years since her death, and no letters written by Hirose are still in existence. Furthermore, documents concerning her life and work are scarce. Nonetheless, a philosophy of care based on her spirit and pioneering work still exists at Gifu Elementary School, and it is the contention of this paper that Masu Hirose should be regarded as the originator of school nursing in Japan.

Correspondence to : Fukae ISHIKAWA

Beppu, 874-0012, Japan

E-Mail : sakura1214@ctb.ne.jp

(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.22, No.2, 2013 136 – 146)